

“ずれ”は、日々の保育を見直すヒント!

自分では気づかなかった学びが得られ、保育のバリエーションがひろがる

この日、「今日のいちまい」をホームページの保護者ページにアップするために、各クラスのアップ予定の写真を見ていたら、2歳児のひらがなが漢字に漢字を入れてスナップで撮っている様子の写真があったんです。

私、「何をしているのかな? お料理しているのかな?」って思って、ちょうど職員室にいた0・1・2歳児リーダーの先生に聞いてみたんです。そうしたら、先生も同じようにその写真を見て何だろう? って思ったみたいで、すでに先生が「保護者ページにアップしたい」と話していたようなんです。

先生の話を聞いて、この「写真」とき、ひらは「また先生を困らせてないからいいかな?」って言いながら、サササだった漢字に漢字を取りに行き行って撮って、貼る気を出していたようなんです。

私、ひらのイメージ力に感心したんです。ひらがな、自分のイメージをしっかりとって、考えながら撮っているんだなって思いました。



「ひらがなも漢字もアツアツ」のひらがなの漢字が上手

(保護者ページ)

私はこの話を聞いて、思ったことが2つあります。

まず1つは、写真から生まれた語り合いを通して、思っている以上にひらがながイメージ豊かに遊んでいたことに、その場にいなかった保育者も気づけたということです。写真による語り合いが生まれるからこそ、保育者の子どもの理解が進んでいくのだと思いました。

もう1つは、写真があると語り合いの場がどんどん広がっていったことです。今回はひらの遊びを見ていた先生と0・1・2歳児リーダーの先生との間で語り合いが生まれました。さらには、0・1・2歳児リーダーの先生と主幹保育教師の先生との間でも、同じ写真を通して語り合いが生まれていました。つまり、写真による語り合いは輪を回して生まれてくるし、こうやって保育者の語り合いはつながり、続いていくんだと思いました。

(2)「わたしのカンファレンス」の発表からの事例

同僚保育者の保育観に気づく

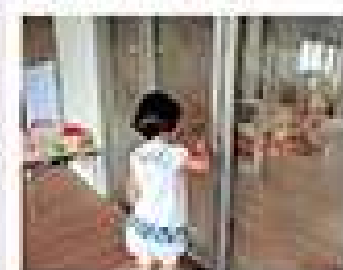
先はともあれ、働き方改革のなかで、「わたカン」は定例的には実施していませんが、保育者の思いもあって後述したこともあり、年に数回

でも1回程度はやっていきたいと考え、今は行儀のあとなどに保育者が集まって発表し合い、語り合っています。

ここで、2023年8月に行ったわたカンの内容を一つ紹介します。

2歳児クラスの副担任A先生による「わたしのカンファレンス」

【1枚目 写真スライド】



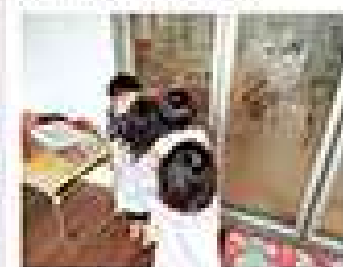
お友達と手をつないで写真を撮り、スライドに映し出してもらいます。

タイトルは、「まだに結露です」。これは、保護者のほうからアツアツで撮っていて、外のほうが曇りがあって、ガラスの両面に結露ができていました。この写真は、2歳児クラスのひらがなが、お友達と手をつないで撮ったんです。私も勝手に撮っていました。

【2枚目 写真スライド】



【3枚目 写真スライド】



すると、今度はひらがなも撮りました。最初は私が撮っていたのですが、自分から撮っていて、やってみようという。『わたカン』は思いがけないところから、私が「ひらがな、お友達と手をつないで撮ったんです。『わたカン』を撮ってもらいました。私は、「もっと、わたカンを撮ってもらえ」と思っています。

すると、今度はひらがなも撮りました。最初は私が撮っていたのですが、自分から撮っていて、やってみようという。『わたカン』は思いがけないところから、私が「ひらがな、お友達と手をつないで撮ったんです。『わたカン』を撮ってもらいました。私は、「もっと、わたカンを撮ってもらえ」と思っています。

窓の結露でのお絵かき



ある保育者
どう働きかけたら、
子どもが生き生きした
活動になるの
だろう…

担任保育者
子どもが自然に始めて、
見守っていたら
遊びがひろがって
いった



“ずれ”

保育者の気づき・学び
あえて見守ることで、
思いもよらないすてきな展開に!